広報
中部の森林（もり）

国民の森林・国有林
中部森林管理局
〒380-8575長野市大字栗田715-5
☎(026)236-2531
http://www.chubu.kokuyurin.go.jp/

戸隠森林植物園リニューアルオープン

ユニバーサルデザイン手法を用いた歩道は車イスでも楽々

（Ｐ６に関連記事）

［写真：戸隠森林官の説明を受けながら散策している参加者］

主な項目

○各県で植樹祭が開催される ……Ｐ２
○第62回　神宮式年遷宮　御杣山関係諸祭等開催される ……Ｐ４～５
○各地からのたより ……Ｐ６～８

各県で植樹祭が開催される

「ふるさとの森づくり県民の集い」長野県植樹祭

［東信署］五月晴れの五月二十一日、長野県、中部森林管理局、川上村などが主催する、「ふるさとの森づくり県民の集い（第五十六回長野県植樹祭）」が川上村高登谷高原で「見つけたよ　すてきな森に　夢いっぱい」をテーマに開催され、林業関係者、みどりの少年団、森林ボランティア団体、一般参加者など約千五百人が参加しました。植樹、育樹作業に先立って式典が行われ、田中長野県知事、藤原川上村村長、関中部森林管理局長がそれぞれ挨拶し、温暖化防止にも役立つ森林の大切さ、緑豊かな環境づくりへの県民の取り組みを呼びかけました。

植樹作業は針広混交林の森づくりとして、カラマツ林の下にトチノキやミズナラの苗木約三千本を植樹し、トチノキの種子を播き付けしました。また、育樹作業はノコギリを使った除伐作業を行いました。参加者は、緑豊かな高原を将来へ残そうと、丁寧にそれぞれの作業に汗を流しました。

児童と一緒にトチノキを植える関局長

「とやま緑の祭典」富山県植樹祭

［富山署］五月二十六日、富山市山田「ころりんの森」で「そだてよう小さなみどりで大きなみらい」をテーマに第六回とやま緑の祭典が開催されました。

今回は、県営湯谷川ダム建設用の土砂採取跡地の植生復元を目指して行われ、県内の花とみどりの少年団や、林業・農業・漁業関係者、岐阜県飛騨地域の農林業関係者約二千三百人が参加しました。

式典では、石井富山県知事の式辞や森富山市長の歓迎挨拶があり、林野庁長官代理として山崎名古屋事務所長が祝辞を述べました。

緑化功労者の表彰や花とみどりの少年団ら代表六人のみどりの誓いの後、参加者は里山林の早期復元の願いをこめて、地元の種子から育てたコナラやサクラ、ケヤキなどの苗木七千本の植樹や、苗床にヤマボウシなどの種子の播き付けを行いました。

富山署は、管内国有林のPRパネルの展示や森林クラフトで参加し、テント内は花とみどりの少年団や一般の参加者でにぎわい、木の実や輪切板などで自由に作った思い思いの作品を大切に持ち帰っていました。

ヤマボウシの種をまく山崎所長

「この緑　未来につなごう」愛知県植樹祭

［名古屋事務所］五月二十一日、愛知県植樹祭が「この緑　未来につなごう」をテーマに、常滑市で中部国際空港セントレアの開港を記念し、関係者約千人が参加して開かれました。

受付後、常滑市りんくう町地内でクロマツ等の記念植樹が行われ、植樹終了後、市民文化会館に会場を移し式典が行われました。オカリナ演奏や警察音楽隊の演奏のあと常滑市助役の開会のことばで式典が始まりました。主催側の神田愛知県知事らの挨拶のあと、緑化関係功労者の表彰があり、各関係団体の代表者に表彰状が送られました。山崎名古屋事務所長からは、額田町の柴田清八氏に育林コンクール林野庁長官賞が手渡されました。

次いで、西浦南みどりの少年団の代表による「緑の誓い」や常滑市民による「緑豊かで快適な愛知づくりを強力に推進する」決議が行われ、式典を終了しました。

植樹後の山崎所長

各地で森林環境教育等が開催される

「炭焼き体験と炭のパワーについて学ぼう」

【名古屋事務所】五月十五日、第二回森林ふれあい講座を定光寺自然休養林内の炭窯で開催し、十五人が参加しました。

今回の講座は、観賞用の簡易炭焼き体験と炭の効果・秘密を活用事例をまじえながら行いました。

炭焼き体験では、炭にしたいものを各自が持ち寄り「松かさ・ドングリ」の定番のものから、中には「茄子・オレンジ・バナナ」などもあり、とてもバラエティーに富んだ炭焼きとなりました。参加者は焼き上がりを楽しみに籾殻（もみがら）と一緒に丁寧に缶に入れていました。焼き上がるまでの時間は、黒炭と白炭の違いや、水質浄化・燃料用・消臭効果等いろいろな場面で活用されている炭について勉強しました。講義が終わる頃には炭も焼き上がり、参加者は自分が持ってきたものが上手く炭になっているか慎重に蓋（ふた）を取り、予想以上に小さくなった「茄子」などをみてビックリしていました。また、空き時間に火おこし体験を行い、火が見事につくと歓声があがりました。

どんな炭ができたかな

自然の酸いも甘いも体験！

【東濃署】五月二十七・三十一日の両日、加子母裏木曽国有林にて、付知北小・南小の五年生を対象に、それぞれ森林教室を行いました。

周囲を山に囲まれた町に住む子供たちですが、最近では自然に触れる機会も少なくなってきているため、自然の中で体験学習をしたいとの要望があり、毎年、恒例となっています。

始めに森林の働き等について学習したのち、班ごとに分かれて「しでのき遊歩道」を散策しました。道下に流れる川の水の美しさに驚いたり、山の谷間から流れてくる水の豊富さに森林は緑のダムであることを実感していました。

遊歩道の途中にはミズメとキハダの丸太を準備し、キハダの皮を一斉になめさせると、その苦さに「ウェー」と言っていましたが、「家族へのおみやげに持って帰る。」と、削ったかけらをうれしそうに持っていきました。

午後からは、丸太切りを行い、ノコギリに悪戦苦闘する姿も見られましたが、中にはおじいさんの工場で何度もやっていて慣れた手つきの子もおり、さすが木の町付知町の子だなと感心しました。切った丸太に思い思いの絵をかいて作ったペンダントを、首からぶらさげて、今日一日の体験を胸に帰っていきました。

ペンダント作りの合間に、木の皮に文字を書いて作ったパズルを女の子がくれました。並べてみると、「森林教室最高だ　ありがとうございました」の文字が現れました。後日届いた手紙にも一人一人の自然や木についての感想が書いてあり、森林教室で感じた事をこれからも忘れずにいてほしいと思いました。

キハダの皮はどんな味

ホタルの幻想的な光に歓声　第三回森林ふれあい講座

【名古屋事務所】六月十一日、定光寺自然休養林に隣接する「定光寺ほたるの里」において、第三回森林ふれあい講座が実施されました。今回は『ホタルの話とゲンジボタルを鑑賞しよう』という講座で、あいにく朝から雨天となりましたが親子での参加者を中心に四十五名が受講しました。

講座では「ほたるの里の会」の加藤会長から、ホタルの生態や人と自然の関わり、里山の環境保全の大切さを講話していただき、子供たちからの質問にも解りやすく答えていただきました。

あたりが暗くなった七時四十分頃になるとゲンジボタルやヒメボタルが飛び始め、幻想的な光に参加者から歓声の声が響き渡りました。

ホタルの舞い始めるのをまって

第六十二回 神宮式年遷宮

御杣山と関係諸祭等厳かに開催される

御杣始祭

【木曽署】六月三日、小川入国有林八〇林班において御杣始祭が執り行われました。

御杣始祭は、二十年に一度の伊勢神宮の式年遷宮に向けた用材を伐り出すもので、この日伐採された二本の御神木は「御樋代木」と呼ばれ、「内宮」・「外宮」のご神体を納める器が作られます。

前日の雨も上がり、神事に続いて花見署長から赤沢の歴史や御神木の選定条件等について説明があり、約三百二十名の参列者が見守る中で、十四名の杣夫が、古式に則った伝統的技法の「三ッ紐伐り」を披露しました。

この「三ッ紐伐り」は、斧を使って安全・確実に木材を予定した方向に伐倒する技術ですが、チェンソーの普及等により斧を使うことが無くなったことから、この伝統ある技術を後世に残そうと地元林業関係者が「三ッ紐伐り保存会」を結成して練習を重ねて来ました。今回の伐採には当署職員の橋本さんがOBらと杣人に選ばれ斧を入れました。

二本の御神木が「大山の神～左よき横山一本寝るぞ～」のかけ声と共に轟音をたてて倒れると、参列者や一般参加者から拍手と歓声があがりました。

里に運ばれた御神木は、四日の「お木曳き」により上松町を奉曳した後、上松駅前の奉安所に奉安され、各種団体による芸能の奉納を受け、六日の朝、伊勢神宮へと旅立ちました。

御杣始祭は千三百年前から受け継がれている神事で、その材は六百年以上も前から木曽谷から伐り出されています。

御神木は伊勢神宮において、ひび割れ防止と脱脂のため貯木池で貯蔵された後、八年後の平成二十五年に「御樋代」として生まれかわります。

御杣始祭の始まり（木曽署）

三ッ紐伐り（木曽署）

裏木曽御用材伐採式

【東濃署】前夜の激しい雷雨が一転、晴天に恵まれた六月五日、加子母裏木曽国有林九十四林班では、伊勢神宮の第六十二回式年遷宮に伴う御用材の伐採式が、来賓百五十名と、一般参加者百名が見守る中、厳かに執り行われました。

伐採式の会場は、裏木曽地域の誇る「木曽ヒノキ備林」のほぼ中央部、美林橋のすぐ上流で大変な急傾斜地であるため、当署から一時貸付けした箇所に、百メートルの参道が造られ、高さ十三メートルに組み上げられた「清水の舞台」と見紛うほどの桟敷上で行われました。

午前十時前から神事が行われた後、笹岡署長が豊臣秀吉の時代から利用されてきた「木曽ヒノキ備林」の歴史を含めた概要を説明。さらに、当署が提供（立木販売）したご神木の大きさと伐倒方法（三ッ紐切り）を説明し、二十年に一回の古式にのった行事をご覧いただきたいとしめくくりました。

ご神木の伐倒では、森林管理署のOB二名が含まれる杣夫十二名が内宮材と外宮材の二組に分かれて、手斧を交互に打ち込むこと約一時間で二本の木が人の字になるように倒されると、参加者から歓声とともに大きな拍手が起こりました。

神事と伐倒が終わると造材と化粧掛けが行われ、西暦に合わせた2005ナンバーの新車のトラックに積み込まれた後、中津川市付知町の護山神社まで奉送され奉安されました。翌六日は、朝から晴天の下、ご神木は護山神社から伝統の三輪神楽、木遣り、オンボイ節保存会、稚児、一般参加者など三百名の引き手により約三㌔の付知花街道センターまで奉曳され、町内の五箇所で神楽などの奉納行事が賑やかに執り行われました。

ご神木は、七日の早朝、奉送祭が執り行われたあと、多くの付知町民などが見送る中、伊勢に向かって出発しました。

御用材伐採式（東濃署）

会場までの道のり（東濃署）

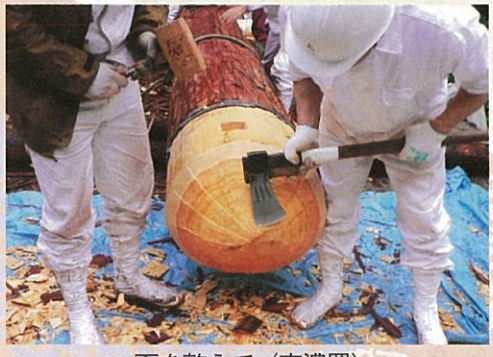
木曾式伐木運材図絵 元伐之図

三ッ紐伐りの様子（東濃署）

木曾式伐木運材図絵 株祭之図

ご神木の梢端を切り株に（木曽署）

急斜面に足場を組んで（東濃署）



面を整えて（東濃署）

倒れる御神木（木曽署）

各地からのたより

「林業技術コンテスト」で日本森林技術協会理事長賞を受賞

【富山署】五月二十三日、東京都千代田区において、第五十一回森林技術コンテストが開催され、全国から選出された十組によって、それぞれの技術研究の取り組みや成果が発表されました。富山署から、横井・佐々木さんの二名が参加し、共同研究課題である「ウダイカンバの密度管理」について発表を行いました。

表彰状を手に横井・佐々木さん

発表後、審査員から「八年という長期間におよぶ調査によって、細かく解りやすい分析がされている。今後も調査を継続し、ウダイカンバの密度管理図が作成出来るよう頑張って欲しい。」との言葉をいただき、日本森林技術協会理事長賞を受賞することが出来ました。

富山署では、今後も、ウダイカンバの密度管理について、積極的に技術研究を行っていきたいと思います。

戸隠森林植物園リニューアルオープン

【北信署】五月十九日、戸隠森林植物園で、車椅子利用者や高齢者の方にも優しく、安全で森林浴が楽しめるバリアフリータイプ遊歩道等の完成を祝う「リニューアルオープン式典」が行われました。

当日は、長野市身体障害者福祉協会を通じてご招待した四十余名の皆さんを始め、総勢八十名が参加しました。式典終了後、車椅子使用の代表者、宮本上（あがる）さんや、酒井署長らによるテープカットを行い、野鳥がさえずりミズバショウやリュウキンカが咲き乱れる園内の散策を楽しみました。

バリアフリー歩道は延長が約二（キロ）、県産材のカラマツを使用し、幅員も一・八メートルと余裕を持たせました。また、スギ間伐材のチップを汚水の浄化に使うバイオマス水洗トイレも設置し、好評を得ています。

参加者の声には、「足元を気にせず、自然の美しさを満喫することができた」、「近くにこんなすばらしい自然があることを知らなかった。車椅子で楽しめるなんて夢のようだ」、「お誘いがあった時は、遠慮するつもりだったが、思い切って参加してみた。管理署の皆さん方に親切にしてもらい、本当に楽しく過ごさせていただいた。自信がついたような気がする」など、多くの皆さんから感謝の言葉が聞かれました。

市町村合併により、新長野市の植物園として、今後、更に幅広い利用者の増大が大いに期待されています。

関係者によるテープカット

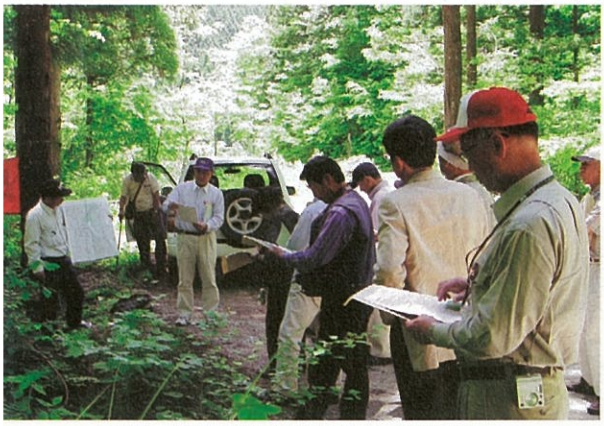
豊かな森と水を活かす地域づくりシンポジウム開催

【岐阜署】六月三～四日、岐阜県下呂市において水資源・環境学会と下呂市の共催、中部森林管理局等の後援による「豊かな森と水を活かす地域づくりシンポジウム」が開催されました。岐阜署は技術センターと供に現地説明やオブザーバー等に参加協力しました。

シンポジウム前のワークショップでは、地元住民や水資源・環境学会、NPO、行政機関等が新下呂市の地域づくりの課題、可能なアクションについて意見交換を行い「森林は多目的であり重要な資源。環境学習等で都市部との交流が必要、具体的なアクションを起こしていく必要がある。」などの意見がありました。

翌日の、エクスカーションでは、下呂市内の森林等を見学し、加藤署長から平成十五年度に旧馬瀬村と覚書を結んだ「馬瀬・渓流魚付き保全林」の現状と課題について情報提供し、参加者は話題性のある取り組みに関心を示していました。

同日午後のシンポジウムには地元住民など約八十名が参加し、冒頭、日本福祉大学情報社会科学部千頭聡助教授が「森と川そして暮らしはつながっている」と題して基調講演を行い「川を守ることが日本の未来に向けてとても大切なこと」


馬瀬・渓流魚付き保全林の説明風景

と話されました。その後、滋賀県立大学環境科学部仁連孝昭教授がコーディネーターに、千頭氏、京都橘大学文化政策学部の井口貢教授、劇団ふるさとキャラバンの平部恵子氏、アジア協会アジア友の会の永井博記氏、元下呂市収入役の小池永司氏をパネリストにデスカッションが続き「森と水と川は自慢できる地球の資源である。森と水と川でつながれている山村と都市部が協働で連携し交流しながら山村を守り育てれば新しい物が生まれる。キーワードは『人』『協働』『情報』である等」今後の下呂市の豊かな森と水を活かした地域づくりに多いに参考となる意見やアドバイスを得て盛況のうちに閉会しました。

砂防学会現地見学会で土岐地区民有林直轄治山事業地を紹介

【東濃署】五月二十五日から三日間に亘り平成十七年度社団法人砂防学会通常総会が名古屋市内で開催され、最終日には旧土岐地区民有林直轄治山事業施工地で現地見学会が開催されました。

現地見学会には六十八名が二台の大型バスに分乗し、国土交通省の土岐市肥田町内の雲五川床固工群を見学した後、隣接する土岐地区民有林直轄治山事業跡地を訪れ、東濃署の牧田治山課長からパネル展示とパンフレットによる概要説明がおこなわれました。

伊勢湾に注ぐ庄内川上流の土岐川流域は陶土化作用を受けた第三紀層及び深層風化の花崗岩からなる脆弱な地質で、豪雨による浸食や、陶磁器産業による煙害とともに、陶土採掘や燃料としての森林の乱伐が行われるなど、自然的・人為的原因により、四千㌶に及ぶ禿山及び荒廃林地が発生し、下流に大きな被害を及ぼした地域です。

このことから、土岐地区民有林直轄治山事業は、昭和七年、岐阜・愛知両県の要請により、農林省山林局直轄事業として現在の土岐市・瑞浪市の一部を施工区域に、治山工事が始められました。林政統一後は名古屋営林局に引き継がれ、昭和四十四年度をもって概成となったところです。

概要説明する牧田治山課長

当事業の実施にあたり、先人たちの多くのご苦労により、施工面積千五百七十六㌶の荒廃林地の復旧が行われました。投入された労力は百七十五万人を超え、投資額は終了時の工事費に換算して約七十一億円にも達しています。

事業終了後、三十六年を経過した今日、立派な森林が再生され、また、中には再開発されている地区もあるなど、当時の荒廃状況の面影はみられません。

見学会参加者にも改めて、治山事業の意義を認識していただけたことと思います。

タテヤマスギ巨木観察会

【富山署】六月四日、立山町芦峅寺ブナ坂国有林で立山町と共催で巨木観察会を開催しました。

今回の観察会は、平成十五、十六年度に美女平からブナ平の約三百㌶で実施したタテヤマスギの巨木調査で、幹廻り六㍍以上の百四十七本の中で特徴的なタテヤマスギとして選定した十本の愛称を募集し、三月に愛称が決まったことから、愛称の紹介を兼ねて実施しました。

巨木の説明を聞く参加者

一般公募で参加した五十名は、美女平園地での開会式の後、四班に分かれて午前中はブナ平、午後は美女平の遊歩道を散策し、タテヤマスギの大きさや容姿に圧倒されたようで驚きの声をあげていました。

参加者からは、「風雪に耐えてきた姿に感動するばかりです」や「スギばかりでなく植物のいろいろ話が聞けて良かった」との声が聞かれました。

散策の途中、バス運転手からのクマの目撃情報があり、雨やヒョウも降る天候でしたが、最後は天気も落ち着き参加者は満足そうに帰路につきました。

「戸隠竹細工の森」の協定締結

【北信署】六月七日、北信署と戸隠中社竹細工生産組合（百五十余戸）が、地域の伝統工芸品として、昭和五十八年に長野県知事が指定している「戸隠竹細工」の継承を図るため、協定を締結しました。

手作りの素朴な味のある竹細工は、従来から農具、蚕具として発展しましたが、最近は壁飾りなどの装飾品・民芸品としても人気が高まっています。

この竹細工の資材であるネマガリダケ（チシマザサ）を、育成し、将来にわたって安定的に確保し、「木の文化」を継承していくために、地元の国有林に竹細工の森を設定しました。

面積は約三百九十一㌶、締結期間は十

年間であり、今後、北信署と連携し、区域内のつる切り、除伐等の整備やタケノコの保護巡視活動を実施していきます。

また、地域の伝統産業を守るため、若手の継承者育成にも力を入れていくこととしています。

調印後、局長を交えて握手

森林整備イベント各地で開催

公務員の林業職へ就職を希望する高校生が森林管理署で実習体験

【飛騨署】五月二十三日から二十五日まで、飛騨署において岐阜県立飛騨高山高校の環境科学科三年生四名に体験実習を行いました。

枝打作業を体験

当署では今回が初めての受け入れであり、学校側も森林科学の学科主体となり森林経営や体験林業の授業が殆どなくなっていることから、学校側の目的を踏まえたうえで、事前に研修生の希望を聞き、現場作業の実習を中心にカリキュラムを組みました。

一日目は巨樹・巨木の管理、間伐調査、二日目は歩道修理、枝打、間伐、三日目は保安林業務、測量、治山工事現場見学を計画し、森林官や担当者の指導のもと実習を行いました。

高校ではチェンソー伐倒の経験はあるが、手鋸や柄の長い除伐鎌を使うのは初めてとのことであり、作業は手間取っていましたが、指導者の説明をきちんと聞き、最後までやりとげました。

実習生からは、学校では経験できない実践的な作業を体験でき、疲れたけれども楽しく時間の経つのが早かったとの感想を聞き、実施した当署としては、まずはホッとしたところです。

研修終了に伴う実習生からお礼の挨拶の後、「今度は職員として来てくれよ！」と署内全員で声を掛け見送りました。

高校への実習生評価の通知について、全員礼儀正しく、真面目で、一生懸命作業に励んでいたことから、担当者として個人別に評価するのに一番悩まされました。

「緑を育てる会」除伐作業を体験

【飛騨署】五月二十二日、神岡青年会議所と自然保護団体「ちんかぶ会」でつくる「緑を育てる会」のメンバーや家族十八名が、高山市上宝町の明ケ谷国有林に契約している分収造林地で除伐や枝打作業を体験しました。この分収造林地は昭和五十九年の国際森林年を記念し、旧神岡町上流の水源林を整備しようと設定されたものです。

枝打作業風景

契約から二十一年が経っており、大きいものでは十数メートルに育った杉や桧を、手鋸を使用して手入れを行いました。

例年、森林教室やネイチャーゲームが中心のイベントでしたが、今年は森林官の指導を受けながら、会員自らが除伐作業に取り組みました。

契約当時から活動を続けられている、ちんかぶ会会長の山本正明さんの「今まで手入れをしてきたかいがあって大きく育ってきた。会員の方々には、これからも森林の手入れ等、山に親しんでもらい森林の大切さを広めてもらいたい」との挨拶に、初めて作業を体験した会員の皆さんもうなずいておられました。

瀬戸で樹木見本林を整備

「名古屋事務所」五月二十八日、第二回、名古屋CF（シティ・フォレスター）事業を瀬戸国有林で実施しました。今回は、第一回目に引き続き、樹木見本林整備に、隊員三十五名の参加で行いました。作業は刈払い七班、歩道整備一班に分かれ、背丈ほど伸びた笹が生い茂るところもあり一生懸命に作業をしました。

この樹木見本林は約三㌶の面積に国内外の樹木七十五種がブロック毎に植えてあり、多くの人に親しみ・学んでいただけるようにと毎年整備を実行している

シティ・フォレスター事業に参加した皆さん

地球緑化センターのボランティア活動への協力

［ふれあいセンター］NPO法人地球緑化センターによる除伐作業が五月十四日と十五日の二日間、長野県上松町の赤沢自然休養林で実施され、当センターの職員も参加し、除伐作業の安全等の指導を行いました。

また、夜は囲炉裏を囲んで、木曽の森林と伊勢神宮の御杣始祭に関する話などを中心とした森林教室等を実施しました。

なお、このボランティア活動は、同法人が市民参加の森づくりを進めるため、協定以前の平成八年から行っているもので、平成十二年「ふれあいの森」制度の公募と同時に応募し、木曽署と協定を結び、愛称「太樹の森・赤沢」と命名して作業を行っています。

今回の作業は、ヒノキ林を育成するため、ヒバの除伐とヒノキの劣勢木を除・間伐するもので、おいしい空気を胸いっぱい吸って作業を行った参加者は一様に大満足の様子でした。

作業を終えて記念写真

OBからの投稿
管内囲碁大会を開催

五月十五日、局別館会議室において、第三十七回管内囲碁大会が開催されました。

現職からは関局長ほか二名、OBから三十二名、林業関係新聞社から二名、あわせて三十七名の愛好者が参加し、連休明けの疲れも吹きとばす熱戦を盤上に繰り広げました。

成績は次のとおり。

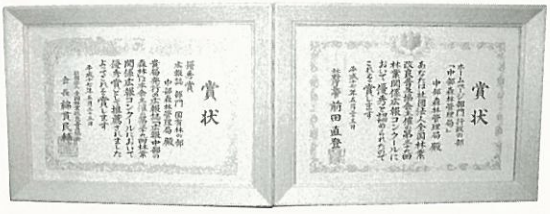
優　勝　荒井　忠　五段（OB）
〃　伊東靖喜　二段（〃）
〃　黒沢嘉武　初段（〃）
準優勝　三浦八雄　六段（〃）
〃　三石文彦　二段（〃）
〃　遠山　宏　4級（〃）

白熱した囲碁大会

林業関係広報コンクールで2部門受賞

第三十九回林業関係広報コンクール（全国林業改良普及協会主催）において、広報誌部門国有林の部で「広報　中部の森林」が優秀賞、ホームページ部門行政の部で「中部局ホームページ」が最優秀賞を受賞しました。

この受賞を契機として、さらに分かりやすい広報誌とホームページを作成し情報発信を行っていきたいと思います。



風景紀行

宮の大イチイ

飛騨森林管理署
(各署の景勝地等を紹介)

『宮の大イチイ』

高山市一之宮町（旧宮村）を流れる宮川、その最上流部に宮国有林がある。

ツメタ谷林道から天然ヒノキ・サワラ等が鬱蒼とする林内（歩道）を進むと、国内最・大最古といわれる『宮の大イチイ』が姿を現す。推定樹齢二千年、樹高二十五㍍、胸高直径は二・二㍍もの巨木である。

幹の一部は腐朽・空洞化し、ミズメ・ヒメコマツ等が着生してはいるが、地元有志・高山市役所一宮支所（旧宮村役場）による保護活動（保護柵設置セラミック炭散布）もあり、今尚青葉を旺盛に茂らせる。

イチイ（一位）は一刀彫で有名だが、名の由来は古来朝廷の使用していた笏（アイスの棒のデカイやつ…）をこの材で作ったことから、位階（階級）正一位・従一位にちなんでつけられたとのこと、またここ一之宮町でも笏を謹製し朝廷に献上していたという。

二千年の時を見つめてきた『宮の大イチイ』も、保護活動により今日があるように、私も妻の保護活動？により一年・一日でも長生きしたいものだ。

◇アクセス方法

高山市役所一之宮支所（旧宮村役場）から県道九八号線、県道四五三号線で旧清見村方面へ約十一㌔。宮国有林のゲートからツメタ谷に沿って林道を一・五㌔、徒歩三十分ほど。途中、看板に従って谷を渡る。

※二〇〇三年九月現在、県道四五三号線は途中でゲートにより通行止め。ゲートからツメタ谷入口まで約三㌔。また、熊出没するので注意。

募集

平成十七年度
山火事予防のポスター用原画及び標語を募集

財団法人　林野弘済会では、山火事予防をすることは、森林の持つ多くの機能を理解し、森林への関心を高め、森林を守っていく森林愛護の精神を育てていくことが大切であり、このような観点から全国の中学校、高等学校の生徒さんから山火事予防のポスター用原画及び標語を募集しています。

問い合わせ先
財団法人　林野弘済会
TEL　03-3816-2471
FAX　03-3818-7886

行事・イベント等の予定

◎トレイルフェスティバル2005
7月2日
北信署管内

◎民有林直轄治山ヒアリング
7月4～5日
南信・富山署管内

◎名古屋シティ・フォレスター事業
7月6・13・22日
愛知所・南信・飛騨署管内

◎第二回森林倶楽部
日本百名山「四阿山」を登る
7月26日
北信・東信署管内

◎森林ふれあい講座
7月31日
愛知所管内

編集　中部森林管理局広報室　編集人　中嶋勝浩